

第3期千葉県地方創生総合戦略

～デジタル田園都市国家構想の実現に向けて～

概要



第Ⅰ章 千葉県人口ビジョン

1 千葉県を取り巻く現状等

(1) 総人口及び人口動態

- ①総人口の推移
- ②人口動態
- ③県内各地域の状況
- ④東京23区との関係
- ⑤在留外国人の推移

(2) 就業や産業等の状況

2 千葉県における長期的な展望

(1) 人口の将来見通し

- ①我が国における人口の長期的展望
- ②千葉県の将来人口
- ③人口減少の影響
- ④第2期千葉県地方創生総合戦略の進捗状況等を踏まえた第3期千葉県地方創生総合戦略における課題

(2) 地方創生に向けて目指すべき理想像

(千葉県の地域ビジョン)

- ①本県への人の流れの加速
- ②目指すべき理想像 (千葉らしいライフスタイルの創造)

第Ⅱ章 第3期千葉県地方創生総合戦略

1 計画期間

2 施策の方向性

(1) 序論

(2) 基本目標

(3) 地方創生におけるデジタルの活用

(4) 豊かな自然環境の保全

基本目標 (1) 地域経済を活性化する環境づくり

- ①未来を支える産業の振興
- ②京葉臨海コンビナートの競争力強化
- ③環境保全と経済成長の好循環の創出
- ④中小企業の活性化支援
- ⑤地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進
- ⑥力強い農林水産業の確立
- ⑦千葉の強みを生かした観光地の整備
- ⑧地域と空港の発展が好循環する地域づくり

基本目標 (2) 多様な人材が活躍できる社会づくり

- ①多様な人材が集う環境の整備
- ②半島性を克服する交通ネットワークの強化
- ③誰もが活躍できる社会の実現
- ④誰もが学び・学び直しができる社会の実現
- ⑤様々な人材が参画できる地域コミュニティの実現

基本目標 (3) 子育てしやすい社会づくり

- ①妊娠・出産・子育ての環境整備
- ②子育て支援の充実
- ③未来を担う子どもの育成

基本目標 (4) 県民が暮らしやすい地域づくり

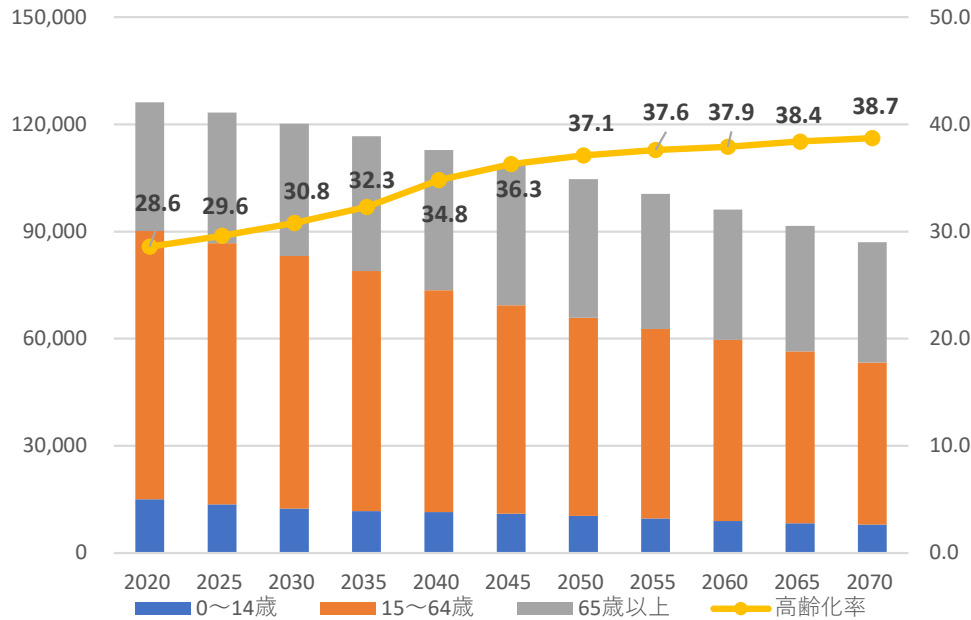
- ①安全に暮らせる環境の整備
- ②健康で安心して暮らせる社会の構築
- ③快適で暮らしやすいまちづくり
- ④文化芸術・スポーツを生かした千葉らしい地域づくり
- ⑤スマート自治体の実現
- ⑥地域連携の強化

I. 人口ビジョン

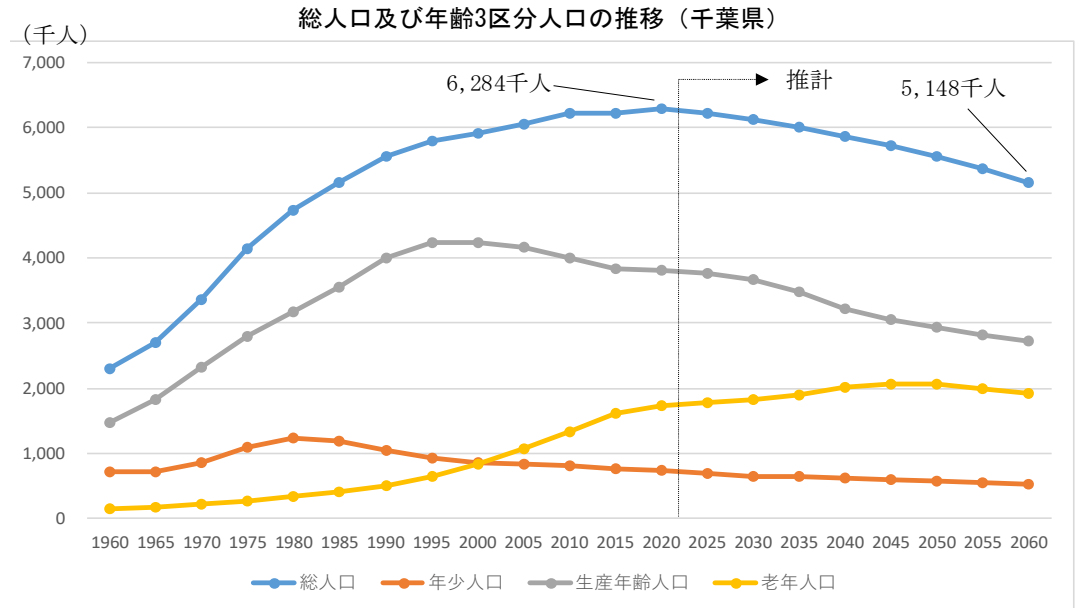
人口の将来見通し

○我が国の人口は2008年をピークに減少傾向にあり、社人研推計によると、2020年国勢調査による1億2,615万人から、2070年には8,700万人（2020年時点の69.0%）に減少するとされている。

○総合計画策定時に実施した将来推計人口では、2060年の総人口は514.8万人（2020年に比べ113.6万人、約18%減少）となる見込み。生産年齢人口が約53%に減少し、高齢化率は約37%まで上昇する。



国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」



資料：新たな総合計画における県推計

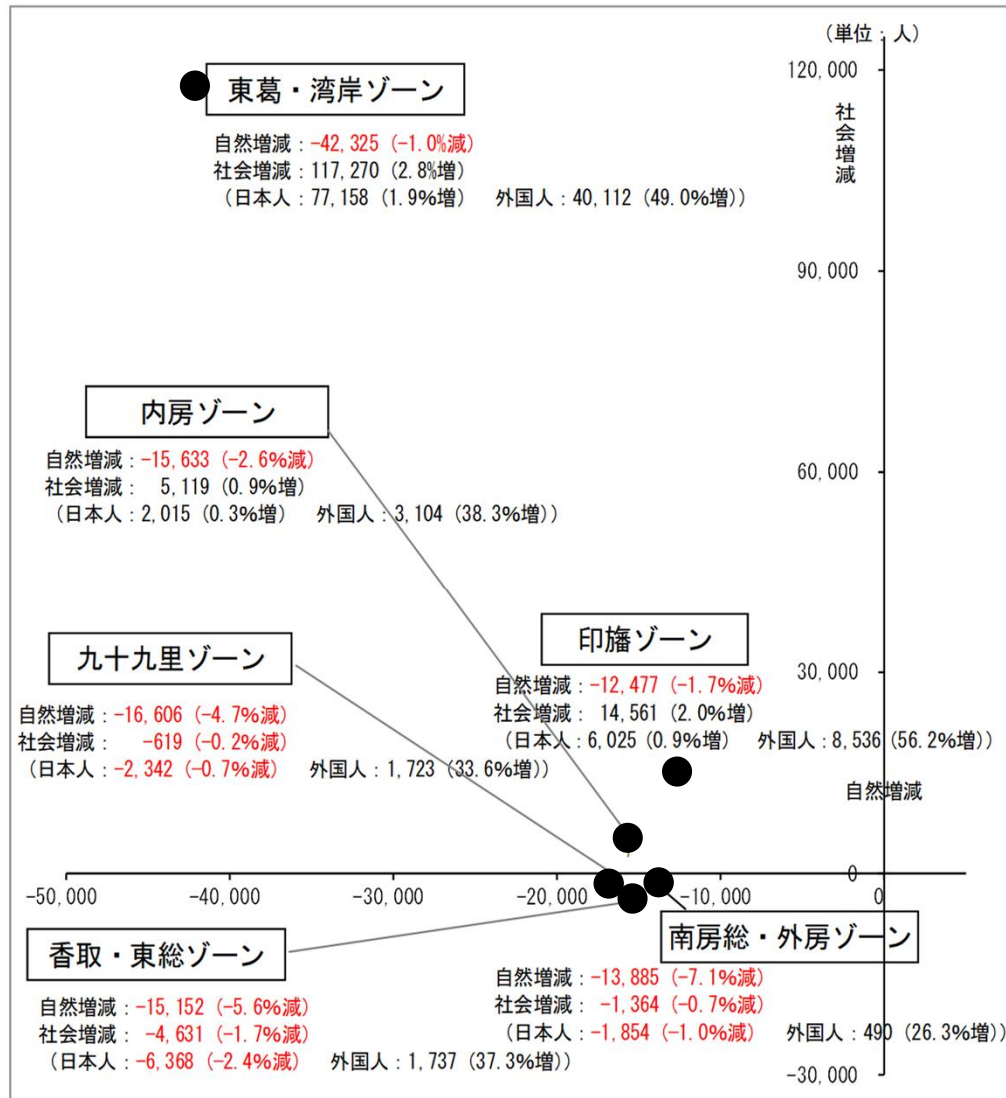
I. 人口ビジョン

○県内各地域における人口の状況は、社会増となっている地域、社会減となっている地域に分類することができる。なお、社会減となっている地域でも外国人は社会増となっている。

○2020年以降、転入超過に転じているものの、転出者を年代別にみると、20歳代の若者の割合が半数以上を占める。

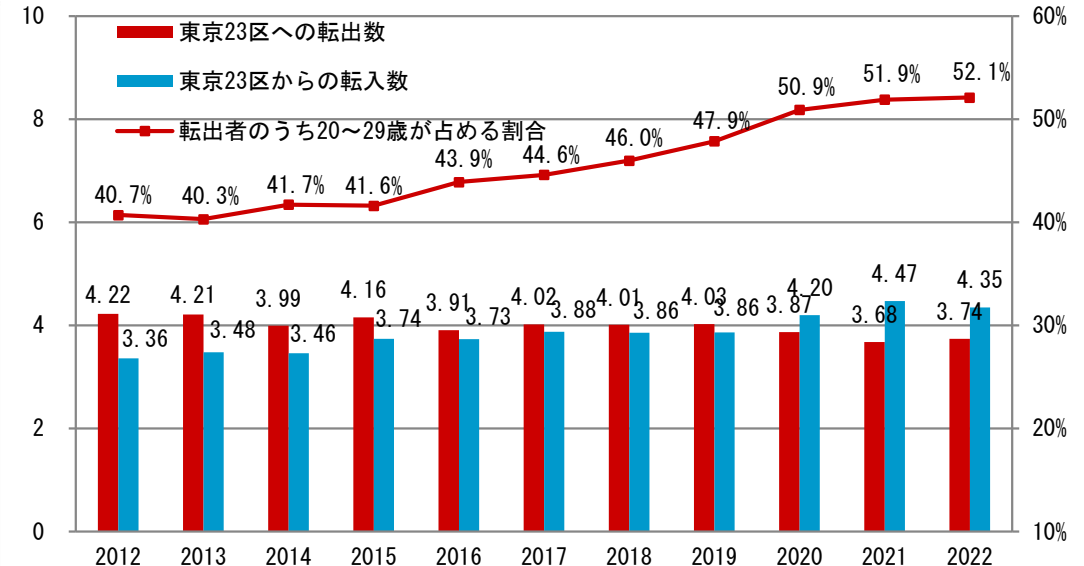
○在留外国人は年々増加しており、2022年には、176,790人と2018年と比較し、16.2%増加している。

○県内各ゾーンの人口動態の状況



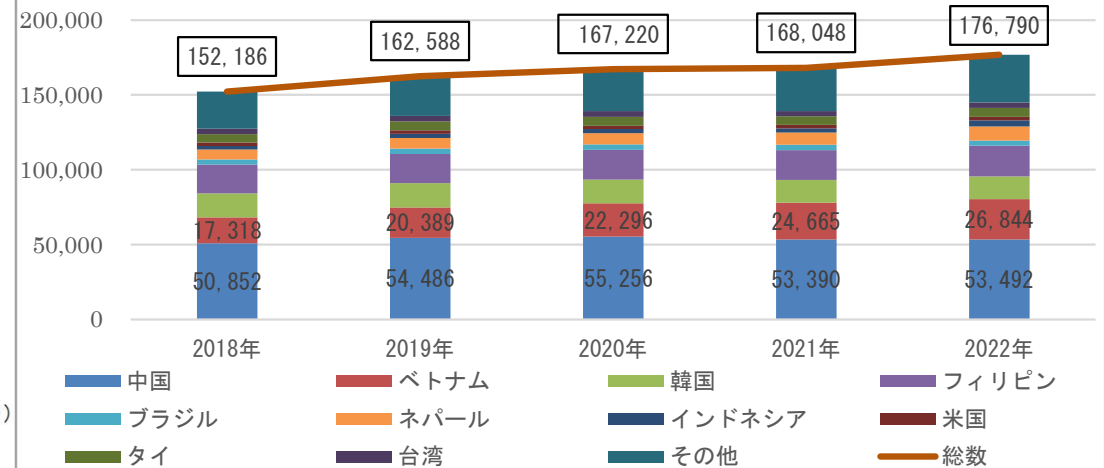
資料：2018～2022年「千葉県毎月常住人口調査」

○転出・転入の推移（東京23区との関係）



○在留外国人の推移

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」



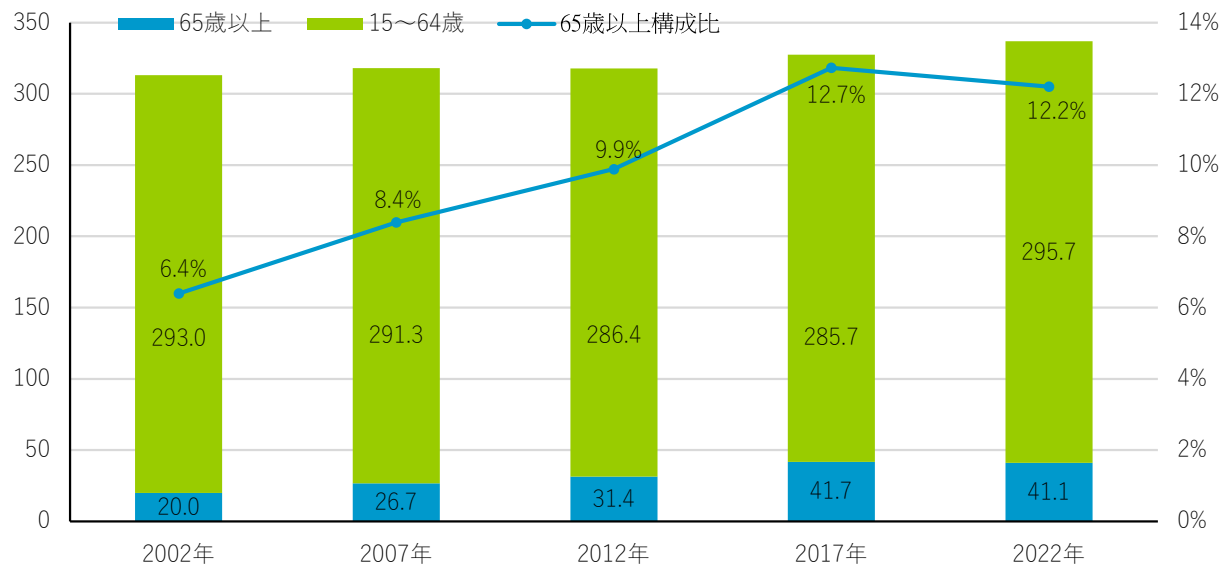
資料：出入国在留管理庁「在留外国人統計」

I. 人口ビジョン

○本県の有業者は、2002年の313.1万人から2022年の336.8万人に7.6%増加している。年齢区分で見ると、2022年には、減少傾向にあった15～64歳までの有業者が増加に転じ、2002年と同程度に回復した。

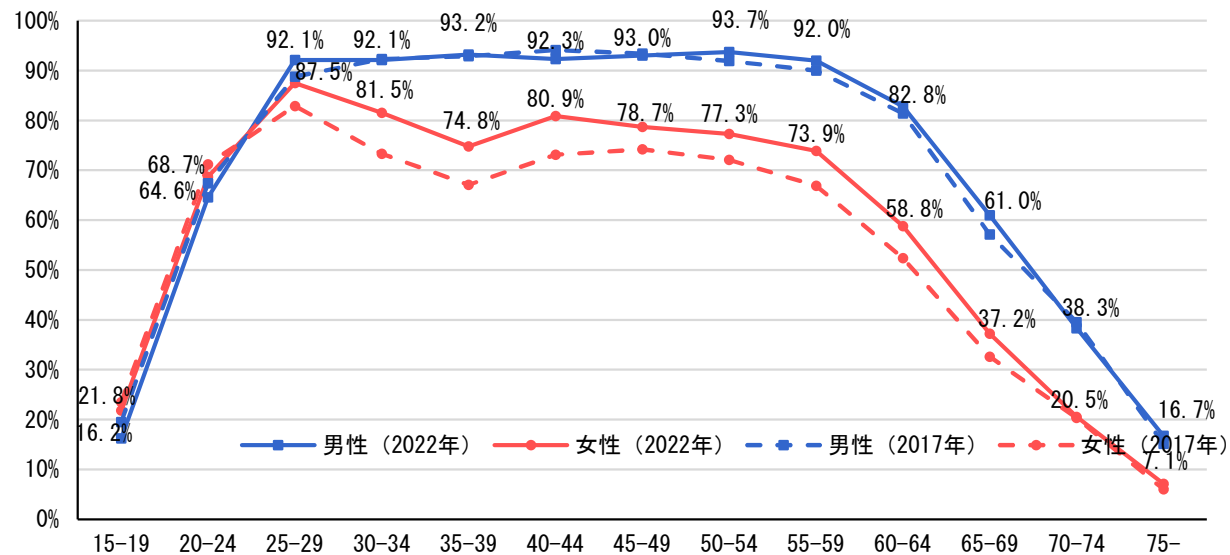
○男性の有業者は、25～59歳の年齢階級において、90%を超えている。一方女性の有業率は、2017年に比べるとほとんどの年齢階級で上昇しているものの、結婚・出産期に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に上昇するという、いわゆる「M字カーブ」の傾向が依然として見られる。

○有業者の推移



資料：総務省「就業構造基本調査」

○有業率



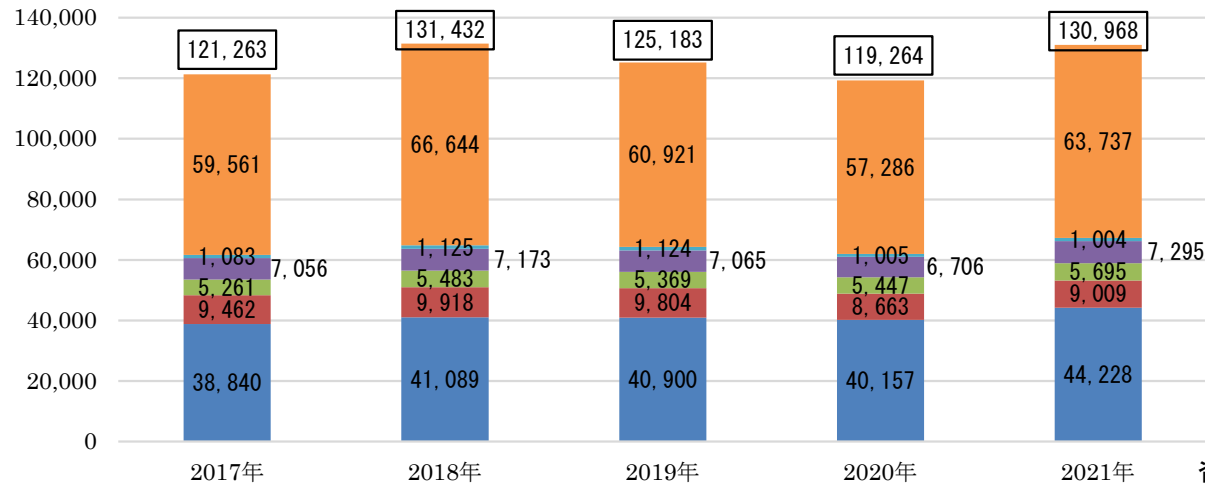
資料：総務省「就業構造基本調査」

I. 人口ビジョン

○2021年の製造品出荷額等は、前年より増加しており、全国順位は8位となっている。また製造品出荷額等は、京葉臨海コンビナートを要する内房ゾーンが最も高く、ほぼ半分を占めている。

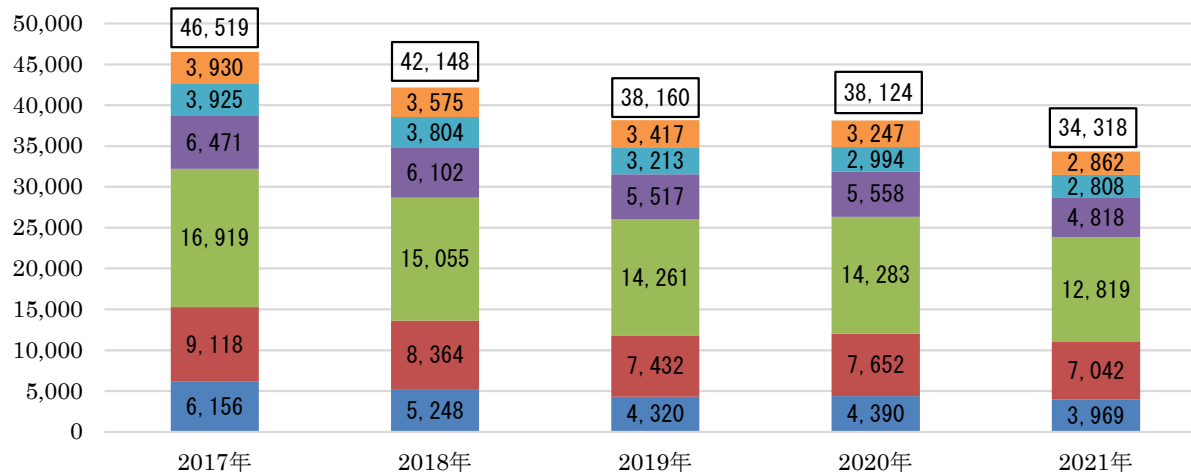
○2017年以降、農業産出額は減少しており、特に2021年は本県で多発した鳥インフルエンザなどの影響もあり、2020年と比較して10%減少しており、全国順位も6位となっている。

○製造品出荷額等の推移



資料：経済産業省
「工業統計、経済構造実態調査」

○農業産出額の推移



資料：農林水産省
「市町村別農業産出額（推計）」

I. 人口ビジョン

第2期総合戦略を踏まえた第3期総合戦略における課題

【働く】

- 県全体としては人口の社会増が続いているが、地域差が大きく、様々な分野において担い手不足の解消が必要
- 成田空港の更なる機能強化や交通ネットワークの整備など、千葉県のパテンシャルが一層拡大する好機を迎えている。
こうした本県のパテンシャルを生かし、良質な雇用の場の創出が必要
- 感染症の影響で落ち込んだ観光産業が未だ回復せず、全国と比較すると本県の外国人延べ宿泊数の回復が遅くなっており、観光客を惹きつける高付加価値の観光コンテンツの醸成が必要

【活躍する】

- 年齢や性別などに関わらず誰もが活躍できる環境が必要
- 社会に出てからも、必要なスキルを身に付けられる環境が必要
- 半島性を克服する交通ネットワークの整備が必要
- 人口の社会増が拡大しており、今後も千葉に向かう人の流れを加速化していくためにも、地域のブランド化を進め、移住等の推進が必要

【育み・育つ】

- 子どもを生き育てやすいと感じる家庭の割合が減少していることから、子育て環境の更なる充実が必要
- 感染症の影響もあり、出生数が減少していることから、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりが必要

【暮らす】

- 令和元年房総半島台風等以降も大きな災害が生じ、「安全」の確保に対する県民の期待が高まっており、地域で安全で快適に暮らせるまちづくりが必要
- 感染症の影響もあり、安心して受診できる医療体制にあると感じている県民が減少していることから、健康で安心して暮らせる社会の構築が必要

なお、このような課題に対し、デジタルの力を積極的に活用しながら、解決していくことが重要である。

Ⅱ. 第3期千葉県地方創生総合戦略（計画期間：2024年度～2027年度）

施策の方向性

- 本県では、まち・ひと・しごと創生法に基づき、2015年10月に「千葉県地方創生総合戦略」を策定し、急激な人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を取り戻す地方創生の取組を進めてきたところである。
- 今後は、新たに生じた地域課題に対応するとともに、デジタルの力などを活用しながら、「人が働き、活躍し、育み・育ち、暮らす」ことで地方創生をさらに発展させていくことで、「千葉らしいライフスタイル」を創造していく。
- また、各地域の実情に応じた施策を効果的に実施していくため、住民に最も身近な自治体である市町村と密接に連携しながら、県と市町村の施策が相乗効果を発揮するよう取り組んでいく。

<第3期千葉県地方創生総合戦略の基本的な方向性>

様々な分野での人手不足の解消や「千葉らしいライフスタイル」を創造するためには、本県の魅力や可能性を伸ばす「人」が重要。

『「人」が働き、活躍し、育み・育ち、暮らす』

<基本目標>

既に本県においても、総人口が減少に転じており、また、新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という。）の拡大を契機に、ライフスタイルの変化や デジタル化の進展、対面型から非対面型ビジネスモデルへの移行など、様々な社会情勢の変化が生じている。

こうした中、目指すべき理想像（地域ビジョン）である「千葉らしいライフスタイルの創造」を実現するため、国が戦略で示した取組方針を参考にするとともに、「千葉県総合計画」及び「千葉県デジタル・トランスフォーメーション推進戦略」、県総合戦略の基本的な方向性を踏まえ、基本目標を以下のとおりとする。

基本目標 1（働く）

地域経済を活性化する環境づくり

基本目標 2（活躍する）

多様な人材が活躍できる社会づくり

基本目標 3（育み・育つ）

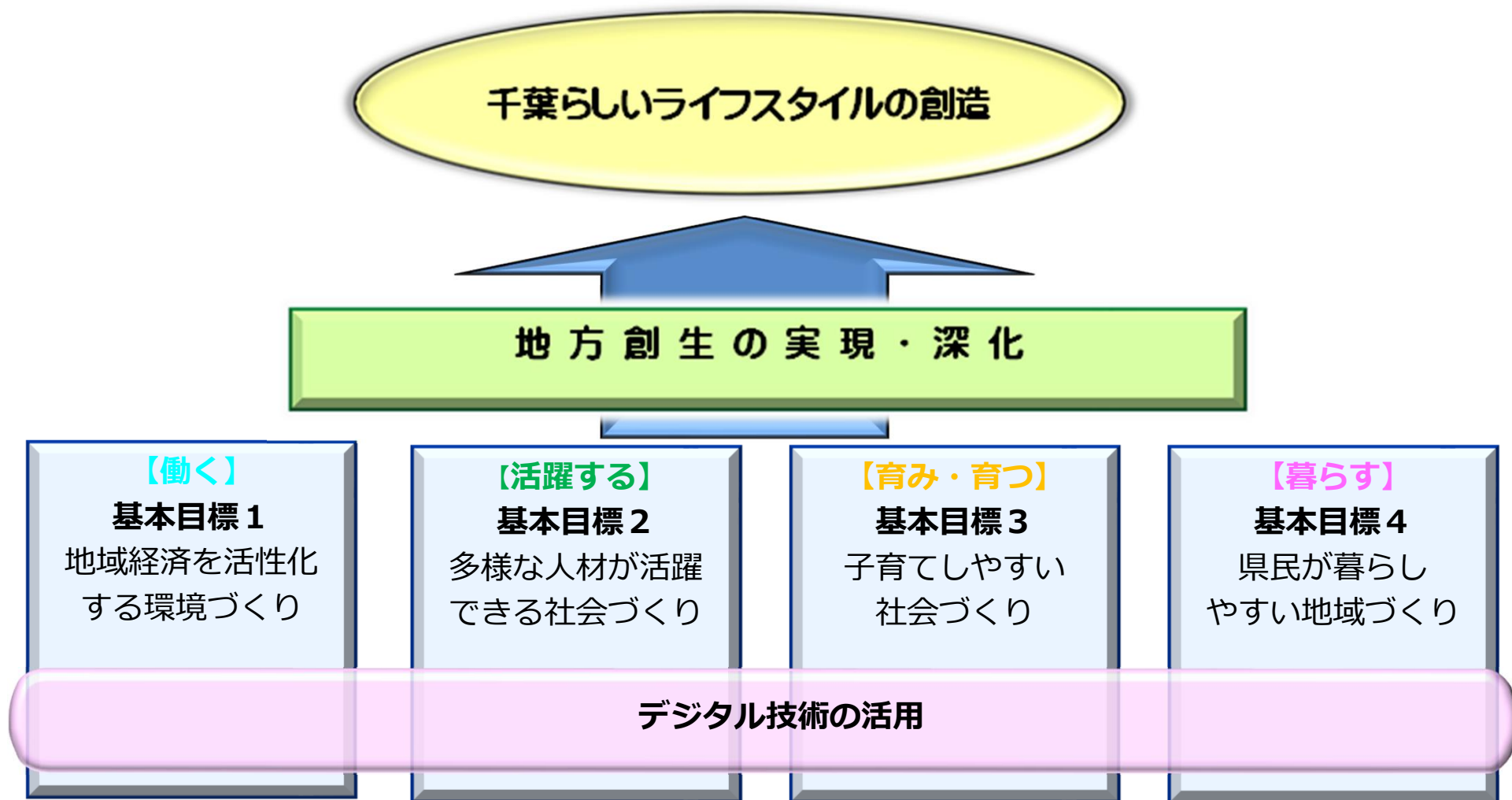
子育てしやすい社会づくり

基本目標 4（暮らす）

県民が暮らしやすい地域づくり

Ⅱ. 第3期千葉県地方創生総合戦略（計画期間：2024年度～2027年度）

改訂に向けた基本的な方向性（イメージ図）



Ⅱ. 第3期千葉県地方創生総合戦略（計画期間：2024年度～2027年度）

地方創生におけるデジタルの活用

○本県でも総人口が減少に転じており、特に東京から遠い地域などで人口減少が進み、少子高齢化による人手不足が避けられない状況である。こうした中、デジタルを活用することにより地域社会の生産性や利便性を高めるとともに、サービスや製品などの開発につなげ、新たな価値を生み出すことで、地域の活力を維持・向上させていくことが必要である。

○デジタルには自動化、見える化、最適化、つながる、分かち合う「シェアリング」、個々に合わせる「パーソナライズ」など、様々な可能性がある。そのため、デジタルの活用は、人の暮らしの可能性を広げ、多様なニーズに対応でき、さらに、新たなビジネスなどを創造することができる。

○千葉県は日本の縮図と言われているとおり、デジタル化においても、都市部と地方部で活用条件が異なっており、さらに地域ごとに必要となるデジタル技術やデジタル人材の育成状況も異なっている。そのような中、地域それぞれの課題等の解決に資するように、デジタル化を推進していくことや、デジタル化を担う人材の育成が重要である。

そこで、今回の総合戦略において設定した基本目標ごとにどのようにデジタルを活用していくか整理する。

①デジタルで「働く」を次のステージへ

労働人口が減少する中、デジタル技術によって、産業の生産性向上を図るとともに、新たなイノベーションやサービスの創出につなげる。

・中小企業のDXの推進 ・スマート農林水産業の加速化 ・デジタルを活用した観光振興

②デジタルは「活躍する」を広げる

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、デジタル技術を活用したテレワークなどの新しい働き方に取り組む企業・人々が増えており、物理的に通勤が可能な範囲から、人々の活躍の場を広げる。

・テレワーク・ワーケーション等の推進

③デジタルが「育み・育つ」を変える

デジタル技術は、教育などの子どもを育む分野でも積極的に活用が図られており、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるなど、「育み・育つ」を変えていく。

・デジタル技術を活用した教育の質の向上

④デジタルで「暮らす」を安全で楽しく

デジタル技術を活用することで、社会基盤施設や医療などの「暮らす」の安全がさらに向上するとともに、文化芸術などの新たな表現の創出による「楽しみ」等の実現を図る。

・デジタルを活用した安全な地域づくりの推進 ・医療・福祉・介護分野でのデジタル化の推進 ・インフラDX

・まちづくり分野でのDXの活用 ・県行政のDXの加速化 ・市町村DXの推進に向けた連携・支援

基本目標1：地域経済を活性化する環境づくり（働く） 戦略（最終案）P28～

本県経済は、感染症の拡大によって生じた様々な環境の変化に加え、デジタル化の進展、脱炭素社会への取組などにより、社会経済の大きな変革期を迎えている。

こうした中であっても、農林水産業や観光業との連携などにより、次世代に求められる総合力の高い産業を創出し、地域の新たな雇用につなげていくとともに、県内各地域の発展を目指し、新たな産業・地域づくりに向けて戦略的に取り組む。

また、成田空港の更なる機能強化に合わせた地域の発展を促進するとともに、空港の利活用の促進や県内外との交通アクセスの更なる充実により、本県経済の活性化を目指す。

さらに、本県産業が持続的に発展するよう、商工業の経営基盤や農林水産業の生産基盤等の強化を図るとともに、将来を支える産業人材の確保・育成を進める。

①未来を支える産業の振興

ア. 新産業の振興 イ. 本県の特徴を生かした企業誘致の推進 ウ. 産業用地の確保 エ. 空き公共施設等を活用した企業誘致の促進

②京葉臨海コンビナートの競争力強化

ア. 京葉臨海コンビナートの生産性向上や事業環境の改善 イ. コンビナートを支える人材の能力向上や担い手の育成
ウ. カーボンニュートラルコンビナートの推進

③環境保全と経済成長の好循環の創出

ア. 再生可能エネルギー等の活用促進 イ. 省エネルギーの促進 ウ. 再生可能エネルギー産業等の振興

④中小企業の活性化支援

ア. 中小企業の経営基盤強化 イ. 事業再構築の促進 ウ. 中小企業等の人材確保 エ. 事業承継の推進
オ. 産業人材の育成支援 カ. 中小企業のDX推進

⑤地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進

ア. 地域資源の活用、ブランド化の推進 イ. 起業・創業の促進 ウ. 商店街の活性化支援 エ. MICEの誘致

⑥力強い農林水産業の確立

ア. 次世代を担う人材の育成・確保 イ. 農林水産業の成長力の強化 ウ. 市場動向を捉えた販売力の強化
エ. 地域の特色を生かした農山漁村の活性化 オ. スマート農林水産業の加速化

⑦千葉の強みを生かした観光地の整備

ア. 魅力ある観光地づくり イ. 観光産業の競争力強化 ウ. 国内観光プロモーションの展開
エ. インバウンドの推進 オ. 観光地へのアクセスを強化する道路整備の推進 カ. デジタルを活用した観光振興

⑧地域と空港の発展が好循環する地域づくり

ア. 成田空港を支える人材の確保を起点とした地域づくり イ. 成田空港周辺地域における国際的な産業拠点の形成
ウ. 交通ネットワークの強化・充実 エ. 更なる機能強化を見据えた成田空港の利活用の促進と人・モノの流れの取り込み

様々な人が本県に住み、訪れ、連携・協力していくことにより、相互作用や相乗効果を生み出し、社会経済の活力、創造性を高めていくことができると考えられることから、将来にわたって活力ある千葉県を維持していくためには、様々な人を千葉県に呼び込み、その人が活躍できるようにすることが重要である。

このため、本県の大きな課題である半島性の克服のため、交通ネットワークの充実を図ることで、千葉に向かう「人・モノ・財」の流れをより一層大きくしていくとともに、デジタル環境の整備状況を踏まえ、移住・二地域居住やテレワーク・ワーケーションなどの取組を進めることで、多様な人材が集う環境を整える。

また、千葉県に集まった人々が十分に活躍できるよう、多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会の実現を図る様々な取組を進めていく。

①多様な人材が集う環境の整備

- ア. 移住・二地域居住の促進
- イ. 若者の定着支援
- ウ. テレワーク・ワーケーション等の推進
- エ. 地域ブランド化の推進
- オ. 空き家の適切な維持管理・流通・活用の促進

②半島性を克服する交通ネットワークの強化

- ア. 高規格幹線道路の整備促進
- イ. アクアラインの更なる効果の発揮
- ウ. 国道・県道のバイパス・現道拡幅等の整備推進
- エ. 港湾の整備・振興

③誰もが活躍できる社会の実現

- ア. 女性・高齢者・障害者・外国人等が活躍できる取組の推進
- イ. 多様な人材の就労支援
- ウ. 働き方改革の推進
- エ. 多様性を尊重する意識の醸成

④誰もが学び・学び直しができる社会の実現

- ア. リカレント教育・リスキリングの推進
- イ. 生涯学習の充実

⑤様々な人材が参画できる地域コミュニティの実現

- ア. 若者・高齢者・地元企業等の地域活動への参加促進
- イ. 地域活動を支える市民活動団体等の育成
- ウ. 地域に関わる多様な主体による連携・協働の促進
- エ. SDGsの考え方の理解促進
- オ. 学校を核とした地域コミュニティの構築と子どもの学びへの支援
- カ. 地域社会への参加促進

県民の結婚・子育ての希望を実現するためには、妊娠・出産・子育てのライフステージに応じて、誰もが安心して子どもを生み、育てられる環境をつくることが重要である。

このため、子育てに要する経済的な負担軽減など、妊娠・出産・子育てに係る総合的な支援や、子育てを地域全体で支える環境づくりを行うとともに、子どもの主体性や創造性を育むような保育の質の充実に向けた取組を行う。

また、国のこども大綱を踏まえ、県においても総合的なこども関連施策に取り組んでいく。

さらに、大きな社会的な変化・変革の中で、新しい時代に対応する「生きる力」を持ち、千葉県の未来を担う子どもや若者を育てていくため、デジタルも活用しながら、個々の能力や可能性を最大限に伸ばしていく。

①妊娠・出産・子育ての環境整備

ア. 結婚や出産の希望をかなえるための支援 イ. 子育てに要する経済的負担の軽減 ウ. 若者の経済的自立と就労支援
エ. 働きながら子育てしやすい環境づくり オ. 妊娠に関する支援

②子育て支援の充実

ア. 保育等の子育て支援体制の整備 イ. 保育人材等の確保と資質の向上 ウ. 子どもの保健対策に関する支援
エ. 児童虐待防止対策の充実と社会的養護が必要な子どもへの支援の充実 オ. 企業・地域による支援体制及び協働体制の構築
カ. 幼児教育の推進 キ. 家庭教育への支援 ク. 子どもや家庭に対する相談支援体制の充実

③未来を担う子どもの育成

ア. すべての子どもたちが質の高い教育を受けられる環境づくり イ. キャリア教育の推進
ウ. 学校の魅力の向上と改革の更なる推進 エ. 学校における多様な教育活動を支援する体制づくり
オ. デジタル技術を活用した教育の質の向上

基本目標4：県民が暮らしやすい地域づくり（暮らす） 戦略（最終案）P60～

県民が暮らしやすい地域をつくるためには、県民が安全に暮らせる環境の整備や、健康で安心して暮らせる社会の構築、快適なまちづくりなどが重要である。また、県や市町村等の行政サービスについて、行政手続にかかる時間の最小化や、それぞれのニーズに合ったきめ細かい行政サービスが受けられる環境づくりも重要である。

このため、激甚化する災害などに対応し、県民の安全・安心な暮らしを守るため、災害時の関係機関と連携した取組を推進することで、被災者支援の対策強化を図るほか、超高齢社会の中にあっても地域に必要な医療・福祉・介護などのサービスを確保する取組などを進めていく。さらに、県や市町村のDXの加速化など、スマート自治体の実現に向けた取組を進めていく。

①安全に暮らせる環境の整備

ア. 自助・共助・公助が一体となった地域防災力の向上 イ. 災害に強い地域づくりの推進 ウ. 地域防災力の向上
エ. デジタルを活用した安全な地域づくりの推進

②健康で安心して暮らせる社会の構築

ア. 地域医療・福祉・介護サービスの確保 イ. 健康寿命の延伸 ウ. 医療・福祉・介護人材の確保と資質の向上
エ. 医療・福祉・介護分野でのデジタル化の推進 オ. 生涯スポーツの推進

③快適で暮らしやすいまちづくり

ア. 公共施設等の適正な維持管理 イ. インフラDX ウ. コンパクトなまちづくり エ. まちづくり分野でのDX推進
オ. 公共交通ネットワークの充実・維持・確保 カ. 国定公園・県立自然公園・県立都市公園等の整備・保全
キ. バリアフリー化の推進

④文化芸術・スポーツを生かした千葉らしい地域づくり

ア. 文化芸術の振興 イ. スポーツを生かした地域づくり

⑤スマート自治体の実現

ア. 県行政DXの加速化 イ. 市町村DXの推進に向けた連携・支援

⑥地域連携の強化

ア. 県と市町村との連携強化 イ. 隣接都県との連携強化

Ⅲ. 第3期千葉県地方創生総合戦略における目指すべき理想像

千葉らしいライフスタイルの創造

- 「千葉らしいライフスタイル」として、千葉らしいライフスタイルやそのポイントについては、例えば次のようなものが考えられる。
- 「千葉らしいライフスタイル」は一過性で終わらせるのではなく、例示したライフスタイルに惹かれて集まった人が、新たな「千葉らしいライフスタイル」を創造し、それが広がっていく好循環が生まれることを目指す。

○ほどよく、住みよく、シティライフ

- ・千葉でも都心に近い地域に住むライフスタイル。都内に比べ、家賃が手ごろで住まいも広くとれる。
- ・都市部であっても、人混みが酷くなく、周辺に適度な自然や商業施設、遊興施設などがあるのが千葉の魅力。
- ・交通網が整備され、房総半島へのアクセスも良く、農水産物やキャンプ等を目的とした小旅行も楽しめる。

○千葉で広がる！趣味に全開ライフ

- ・千葉で様々な趣味を楽しむライフスタイル。千葉はサーフィンやSUPをはじめとした海遊びはもちろん、様々な音楽フェス、各地のキャンプ場やサイクリングロードなどがある。
- ・こうした趣味を楽しみながら、都内などへも通勤できるのが千葉の大きな魅力。

○千葉でのびのび子育てライフ

- ・千葉の一戸建てで子育てするライフスタイル。千葉は首都圏の中でも比較的手ごろに一戸建ての購入が可能であり、広やかな住環境でのびのびと子育てができる。
- ・住環境だけでなく、大きな医療機関や教育、保育などの施設が充実している場所が多いのも千葉の魅力。

○千葉で謳歌するセカンドライフ

- ・温暖な気候でセカンドライフを楽しむライフスタイル。千葉は気候が安定しており、半島地域であっても医療機関へのアクセスが良い地域もあり、リタイア後の生活を送るには最適である。
- ・高速道路が整備されており、成田空港に行きやすいことから、思い立ったら海外旅行に行くことができるのも千葉の魅力。

○千葉でチャレンジ！スタートアップライフ

- ・千葉で起業するライフスタイル。千葉は人口の社会増が続いており、特に新しいまちに人が多く引っ越してきている。そうしたまちには新しいチャレンジを受け入れるだけの環境があり、人材の集積もある。
- ・千葉は多くのコワーキングスペースやインキュベーション施設があり、起業を支援する環境があることも千葉の魅力

○千葉で育む、農業の新たな成功ライフ

- ・千葉で農業をはじめするライフスタイル。千葉は農業も盛んであり、落花生や梨などは日本一の生産量を誇る。
- ・加えて、物流の2024年問題以降、東京に隣接する千葉の競争力は更に上昇する可能性がある。
- ・ワンストップ輸出拠点機能を備えた成田市公設地方卸売市場があり、農林水産物の輸出にも強みがあることも千葉の魅力